

I 小学校部会

国語科部会（低学年の部）

研究主題 確かな言葉の力を身に付け、豊かに表現し合う子どもの育成
～単元を貫く言語活動を通じた指導の在り方～

1 主題について

昨年度に引き続き、豊かな表現力を身に付けるためには確かな思考力(論理的思考)の深まりが必要であると考え、このテーマを設定した。単元を貫く言語活動を通じた指導の在り方を探ることによって、思考力を深める学び合いはどうかあればよやかに焦点を当て、授業研究に取り組むことにした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月30日	第2回総合研究会授業研究会 (西館小学校)
9月 8日	指導案検討会 (西館小学校)		

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月30日(木) ・会 場 西館小学校
- ・単元名 2年 「ふたりはともだち」シリーズ作品を読んで、お話を紹介しよう
- ・授業者 工藤 育子

① 授業者から

- ・「お話を読むポイント」という視点を与え、読み取りをしてきた。読書記録を付けている。
- ・学習課題は、子どもから出た言葉を生かし、学習計画を立てた。
- ・グループ活動では、教師が押さえない言葉を押さえきれなかった。



【会話文の気持ちを考えよう】

② 協 議

- ・これまでの学習の積み重ねの成果が見られた。子どもたちが音読劇を楽しんでいることが分かる。一人一人が「台本」をもっており、そこに学習の積み重ねが残っている。自分の学習を振り返るツールになる。
- ・読書記録に用いた「7つのポイント」がよい。視点をもたせることで、読み取りの力が付いていく。
- ・(2年生になってから、音読劇を言語活動として取り入れた単元が3つ目だということから)いつも同じ言語活動でよいのか。いろいろな言語活動を取り上げ、付けたい力のバランスを考えたい。
- ・単元計画では、ゴールが分かりやすく示されている。しかし、全員が読んでしまった本を紹介し合うという活動では、意欲付けとしては弱いのではないか。音読劇を生かして、他の学年に読み聞かせをすることも考えられる。
- ・話し合いでの子どもの声をもっと生かしたい。教師がまとめるのではなく、子どもの発言やこれまでの感想などを引き出すとよいのではないか。

- ・グループ学習の人数設定がよかった。また、話し合いのための視点を与えたことで、単なる意見発表にならず、話し合いが焦点化できた。反面、子どもだけで意見をまとめると、教師の押さえない言葉を取りこぼしてしまうこともある。
- ・登場人物の心情にせまるために、叙述に即して読み取らせたい。「親友」という言葉を押さえると、まとめにせまることができる。
- ・早く書くように鍛えられている。しかし、じっくり考える時間を保障したい。

(2) テーマ研究

単元を貫く言語活動の実践事例を紹介し合った。教師側から言語活動を提案する場合は付けた力を考慮しているが、子ども側の必要感との乖離を感じることもある。いかに実態に即しているか、必要感にマッチさせるかが難しい。

(3) 指導助言（北教育事務所 指導主事 谷内 直毅）

- ・環境構成がすばらしい。拡大文章や台本、吹き出し、お面など、教材教具がよく準備されていた。また、単元計画が掲示され、子どもたちが学習の流れを理解していた。それが、意欲的な学び、主体的な学びにつながっていた。並行読書しているシリーズ本が並べられており、単元の学習に生かされていた。
- ・言語活動は、付きたい力とのマッチングが大切である。また、教材の特徴によって、どんな活動に向いているかも違う。整合性のある言語活動を、子どもの興味・関心に基づいて位置付けていきたい。本時は子どもたちが音読劇を楽しんでいたし、読み取ったことを台本に書き込んでいく活動を位置付けるなど、工夫が見られた単元構想であった。
- ・単元を貫く言語活動である音読劇と、本時の課題やゴールが結び付いているのがよかった。しかし、本時における音読は、ねらいではなく手段であることを考えると、本時のねらいの前半に音読の活動を、後半に読むことのねらいを書き、授業のゴールとしては、読み取ったことの評価をするべきであった。
- ・発表に対する切り返し発問や、話し合いのコーディネートは、教師の腕の見せ所である。各班の発表について、全体で練り合わせたい。意見の相違があるときは、子どもの発表をきっかけに、叙述に戻ることが大切である。また、多様な考えが出る発問を心がけたい。
- ・本時の課題とまとめの整合性が見られた。時間的に厳しいかとは思いますが、振り返りの時間も大切にしたい。振り返りは、視点を与えることが大切である。「今日は何ができたか」「何が分かったか」「次は何を頑張りたいか」「今日学んだことをどこで生かすか」などについて、記述で振り返らせたい。それを課題作りに生かすなどして、次時の学習につなげる工夫をし、学習意欲を向上させたり、主体的な学習につなげたりしてほしい。
- ・従来、2次の教科書教材の学習が終わったので、3次で発展的に言語活動を行うという流れが多かった。既習事項を確実に生かすためには、言語活動の取り入れ方を工夫してほしい。2次と3次の学習をつなげる方法として、入れ子構造（低学年向き）やA Bワンセット方式がある。発達段階や教材・言語活動にもよるが、今後、これらの考え方を生かした単元構想にも取り組んでみてほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・読みの視点、話し合いの視点を与えることで、子どもが主体的に学ぶ姿が見られた。

(2) 課題

- ・言語活動を設定する際には、付きたい力や教材の特性を見極めることが大切であり、バランスも考慮しなければならない。